

KojiMemo(23)

2011-06-27

(次期) 総理に告ぐ

10年100兆円で日本再生のチャンス

個別問題として解いてはならない。また解けない難問である。

今回の難局に数十兆円を捻出するのは極めて困難であり、国民の理解を得てコンセンサスを形成するのに多大なる時間がかかる。それは、地震、津波、原子力の3重苦を解こうとするからである。それだけの投資（結局は国民からの、子孫からの借金に過ぎない）をして、“元の問題だらけの日本に戻るだけ”であれば、何の解決にもならない。そんなことなら誰でもできる。とても政治とは言えない。

今回の3重苦への対策に10年で50兆円規模の財政が必要となろう。(まったくのいい加減な数字であり、GNPの10%ほどの大災害とみた)

残りの50兆円で、さまざまな問題を10年かけて解決させる。例えば農業再生にも、毎年一兆円かけて10年かかるテーマであろう。ちょうどお隣の韓国ではこうした施策で抜本的な改革をやり遂げた。それで全ての農家がハッピーになったかといえば、とんでもない逆で、多くの古い体質の農家で自己改革をなしえなかった農家は消えていった。生活苦から自殺に追い込まれた農家も少なくないと聞く。国際競争力をつけるためのもの凄い努力と体質改善が必要となる。生活が苦しいから補助するような、甘えを助長するような政策はきっぱりと捨てねばならない。その代わり改革に果敢に挑戦する意欲のある人には、手厚く支援し、誘導する。それが政治というものであろう。

沖縄基地問題も難問の一つである。沖縄を“基地があるからこそ、生活水準も日本トップクラスにし、住みやすい若者に夢を持てる魅力のある県とする。”これも毎年一兆円で10年かける課題であろう (Koji Memo(6) 参照)

もうひとつの大きな課題は森林再生問題であろう。これは環境問題の長期的根源的な課題である。過去の世界の歴史をみると、森林破壊で滅びて行った文明も多い。

グリーンエネルギーや水問題は、すでに産業界が動き始めているので、政治のイニシャティブの大きなウェイトをかけなくても進むであろう。

最も困難な課題は、日本の官僚支配構造からの脱却である。改革のためにトップ層を総入れ替えし、民間の優れた経営経験者にリードしてもらおう。これは別に民間経営者の方が人材としてふさわしいからではない。過去のしがらみから解き放つことが最大のねらいである。そして優秀な官僚の人材を世界貢献してもらおう出番を用意する。(Koji Memo(4) 参照)

問題を総花的に取り上げても効果少ない。重要課題5つぐらいに焦点を絞り、それぞれ毎年一兆円かけて10年で改革する、という明確なビジョンを示してもらいたい。

さて、借金をせずに、また子孫への負担を増加させずにどうやって 100 兆円を集めるか。これには答えはひとつしかないと思われる。国民個人の金融資産の合計は、ちょうど国と自治体の借金の合計の 1,400 兆円規模と言われている。その 10%弱を 10 年かけて供出させる仕組みを作る。

そうした資産を保有するのはシニア層の割合が多い。そうした資産のかかなりの割合が、今後 30 年、40 年かけていずれ遺産相続の税金として国に入ってくるものである。それを計画的に 10 年で供出させる仕組みを作る。明るい社会が見通せないために、老後の不安のためにできるだけ貯め込んでおこうという心理が強く働いている。一方で、次の世代に大きな負担を残すことへの罪悪感もある。本当に明るい将来が描けるなら、かつ自分の老後の不安を一切消してくれる手厚い制度が実現するなら、相当数の割合で供出してもよいと考える人もでてこよう。(Koji Memo(4) 参照)

これを実現させるためには「信頼できる政府と国でなければならない」という絶対的条件がある。現在のような中途半端な社会構造・政治構造のままでいくら新しい制度を作ったとしても、その金目当てに良からぬ連中が集まってきて食べ物にされてしまう。それが見えたら、人は一切供出を拒むであろう。

こうした改革をリードできるのは、人格者で調整型の人間では絶対にできない。私利私欲を捨てて、命をかけて使命を貫き通す冷徹さが必要である。実際、改革実行中に暗殺者により命を奪われる可能性も高い。なぜなら、これまでの仕組みの中で既得権にしがみついて、甘い汁を吸ってきた連中にとって、生活基盤を奪われ、自尊心を傷つけられ、狂気に走る人間が多数登場することを覚悟しなくてはならない。恨みこそかえ、生きているうちに尊敬されていい思いをすることはないのであろう。死後 100 年たって評価が得られるような事業である。

この計画が発表された時、賛成する人が 20%、猛反対する人が 40%、そんなことができるわけがない、と様子を見る人が 40%であろう。リーダによる命をかけた意気込みとビジョンを繰り返し訴えて、その最後の 40%の人を賛成側に回ってもらう。

この改革は 3 月 11 日以前に半分の 50 兆円で提示されたとしても、実現しなかったであろう。国民全体の危機意識と改革意識が高まった今こそ、チャンスである。政治家を志した人にとって、これほどの事業をてがけるチャンスにめぐりあえたということは、なんと幸せなことであろう。

表題に (次期) と () つけたのは、現総理も十分資格がある、と見るからである。なぜな

ら、これほど国民の信頼を失い、身内の民主党からでさえ、やめろやめろの突き上げられている総理も珍しいからである。もう誰に恩義を感じる必要もないし、捨て身になれる環境が整っているからである。現総理以外で、今までの感覚で自分にもチャンスが回ってきたのでは、虎視眈々とねらっているのがいたとしたら、大きな間違いである。日本にとって、またしても不幸がやってくる。

人の痛みを分からなくてはいけない、しかしそれに振り回されて、本来あるべき姿を見失ってはいけない。国民全部がハッピーになる改革などあり得ない。社会制度の抜本的な改革とは、多くの人に大変な痛みを強いるものである。命がけで改革に取りくんでもらいたい。それが見えれば、51%以上の国民が支持する。

文責：河村幸二 koji@sparj.com

ここで参照している KojiMemo のアーカイブは、<http://www.sparj.com> のトップページの最下段の個人的ブログコーナーに飛んでください。